

最初にニュージーランドの概況は、面積は約 27.5 万km²（日本の約 3/4）で人口は約 437 万人の数字だけでもよく分かるように、のどかな国でした。

ヘイスティングス、ネイピア、ロトルアは農地が広がり、移動していても風景が変わらないほど、1 か所 1 か所で面積を大きく使っていた。日本では 1 反歩（10a）などと数えるが、先方ではエーカーと数え、1 エーカーが日本の約 4 反歩ぐらいの大きさから、規模の違いが感じられた。

首都はウェリントン（北島）ですが、オークランドは国全体の 1/3（約 150 万人で、うち 51 %が外国人）で、都市部に人が集まりドーナツ化現象に思えた。

生活費に関しては水道は無料（地域よる）で、電気代は月約 4、5 万円と高めだが、ほとんどの家がオール電化なので、考え方によっては妥当だと思う。ちなみにニュージーランドでは原子力発電はなく、水力発電でまかなっているらしい。今年は 3 月現在で聞いた時には、1 月 2 月と 2 か月間も雨が降らず、その施設が南島にしかないことから、北島に供給するために若干高めになるそうです。北島でも今そういう施設を建設中で、移動中に見ることができました。

ニュージーランドでは羊・牛などの畜産が盛んで、山という山の木を抜き、そこに芝を植えている状態でしたが、2 か月間も雨が降らず、加えて紫外線も強く（日本の 12 ~ 13 倍）枯れ込んでおり、夏枯れという状況を初めて目にしました。

各農園、農地を視察して感じられたことは、棚持ちの長い物（リンゴ、フィジョア）は輸出に力を入れていたが、逆に棚持ちの短い物（生食用ブドウ、ピーマン、パプリカ）に関しては国内向けと考えており、一部のみ輸出している状態で、農産物によって分けられているのは、日本とそういう面では似ていると思った。

栽培環境については、大げさに言うと強制的にその生物に適した環境を作り、病害虫に対する農薬なども極力使わず、生物そのものの力を使うことにより抵抗力を付けるという面では、環境条件は日本とは違うが、生物を大切にするという気持ち的にはニュージーランドで農業をやっている人たちの方が考えていると思えた。そういう風にやっていけば作業をしている人も楽しくできるし、おのずと良品質ができると感じられた。

最後にニュージーランド、韓国に視察研修に行かせてもらい、今の時代インターネット社会、情報はいくらでも入ってくるが、肌で感じられること、その国の匂いは行かないことには感じられない。もしそういう機会があればまた行きたいし、行ってほしいと思う。

P.S. ニュージーランドでピーマン、パプリカを克服することができました。